

今月第14号は西中国部岩国みなみクラブの高瀬 稔彦ワイズにご登壇いただきます。



『チョコちゃんに叱られますよ』

西中国部 岩国みなみクラブ
高瀬 稔彦ワイズ

私は2000年6月に岩国クラブのチャーターメンバーとして、28歳で入会して、2013-14年度に西日本区理事を務めさせていただきました。

その間、クラブ会長を3回、西中国部部長を2回、そしてワイズリーダーシップ開発委員会(以下LD)委員、西日本区2000推進チーム委員の選出を西日本区から要請された時に、いつも人身御供?になるのが、私の役割でした。

クラブに入会した動機も、地元サークルからの人身御供?でした。

もともと大学時代に、PHD協会やアジア協会アジア友の会等の国際NGOに関わっていて、岩国でもそういうサークルに所属していて、岩国YMCAを利用していました。岩国クラブ発足の際に「サークルから1名入会して」との要請を受け、サークルで一番年少だった私が選ばれたのがきっかけです。

そんな動機でしたし、私1人だけ年齢が離れていて居心地が悪く、みんなが集まって弁当を静かに食べて、なんだか難しい事を協議して、知り合い同士だけがおしゃべりして帰るといふ例会スタイルでは出席意欲も湧かず、2年間で50%も出席しませんでした。

入会3年目でクラブ会長を請われて務めた時も、一人相撲して悩みました。また六甲YMCAで行われていた次期会長・主査研修会のフェロウシップアワーのときに、暖炉の周りに集まって楽しく歓談される皆さんを横目に、すごすごとベッドに入って寝たことを思い出します。

私は元来ネガティブ思考で、みんなに言わせると「そこで爆発する!？」という瞬間湯沸かし器で、臆病な性格で知らない人とすぐに打ち解けることができない小心者です。

そんな私がどっぷり浸かるきっかけは、LD委員に任用された事です。

任用時のLD委員長だった岡本就介ワイズは、格好よいのは当然として、委員への心遣いと自分の言葉で語ってくださる説得力が、とにかく眩しく映りました。またLD委員に私と同じ年頃で、ユニークなキャラクターでしっかりとした大人がたくさんおられるのにも、とてもワクワクしたのを憶えています。

ネガティブな私が悩んだときには、人工衛星で見張られているんじゃないかという絶妙のタイミングで、いつも故益国孝太郎ワイズが電話してきてくださいました。瞬

間湯沸かし器が沸騰して、「ワイズを辞める！」と啖呵をきいた時も後田雅伸ワイズが、一緒にクラブで頭を下げてくださるなど、いつも陰日向なく見守ってくださる大人たちが、私の周りには居てくれました。今の私を育ててくださったのは、ワイズの皆様のおかげです。

ワイズメンズクラブはYMCAのサポートクラブであり、国際奉仕団体といわれるのですが、私はそうである前に世界的な親睦団体だと考えています。

つまり奉仕は手段であり、クラブの目的は大人を育てることだと思います。

善良な人間関係に育まれたクラブのエネルギーが向かう先が、社会に対する奉仕であることは否定しませんが、まずはクラブ会員が新たな発見にワクワクしたり、多彩なキャラクターの人に出逢ってドキドキしたりして、清々しい気持ちで例会を去るようなクラブでなければEMCは成り立たないと思います。

例会や役員会が終わって家に帰ったら、クラブの愚痴や悪口を家族に言わないといけないようでは、とてもEMCはできません。

次期理事研修会で台北に行った時のことです。研修会のティータイムで教室の脇のカーテンを開けるとお菓子や飲み物がこれでもかと並んでいて、みんなが声をかけてくださって自分もその輪に自然に解けこんで談笑のひとつきが過ごせました。懇親会では日本語を話す台湾の方が来られて歓談のあと乾杯の嵐、意気投合して行った二次会はカラオケ屋で、みんなで肩を組んで大熱唱でした。このクラブに在籍するだけで、こんなにたくさんの友情に恵まれるなんて最高です。

台湾の人の真似はできないかもしれないけれど、普段からゲストやビジター、ユースリーダーやYMCA職員さんなど、きょう逢う相手の事を慮って一期一会を大切に作る例会づくりが、ほんとうの「楽しい例会づくり」だと思います。

皆さんには、釈迦に説法で、とっくに気づいていらっしゃるはずです。

皆さんがクラブに嵌った動機をそのまま新しい会員さんにして差上げればよいだけですから…。

チコちゃんに叱られますよ「ボーっと生きてんじゃねーよ！」 —失礼—